



### 図書館 返却ポスト 夜間利用停止について

福島県立美術館で開催されている「福島県政150周年・東日本大震災15年 大ゴッホ展 夜のカフェテラス」に関連した美術館・図書館の夜間敷地内立入制限に伴い、返却ポストの夜間利用を停止しております。

利用者の皆様には御不便をおかけしますが、何卒御理解と御協力をお願いいたします。

#### 【返却ポスト 夜間利用停止期間】

令和8年2月5日(木曜日)から5月23日(土曜日)  
午後9時から翌朝午前6時の間

※ 立入制限区域: 福島県立美術館・図書館 敷地内全域(駐車場、庭園含む)

### 資料の返却はお済みですか？

年度末・新年度の卒業・入学・就職・転勤などに伴う転居時に、これまでお借りになっていた資料の返却漏れや紛失が毎年発生しています。借りていた資料の返却をお忘れないよう、お気を付けください。

※福島県立図書館で借りた資料を、県内の一部の図書館・公民館図書室で返却することも可能です。

(福島市立図書館など、返却できない図書館・室もあります。詳しくは当館ホームページでご確認ください。)

## 展示のご案内

### ● オランダの絵本と児童文学展

場所: 企画展示コーナー

期間: 1月8日(木曜日)から4月1日(水曜日)

### ● 観るスポーツを読む

場所: 軽読書コーナー

期間: 2月6日(金曜日)から4月1日(水曜日)

### ● 雑誌で読むゴッホ

場所: 調査相談カウンター横 雑誌展示コーナー

期間: 3月6日(金曜日)から5月6日(水曜日)

### ● 東日本大震災から15年

場所: 公開図書室 中央

期間: 3月3日(火曜日)から4月1日(水曜日)

### ● 西洋美術 ゴッホを中心に

場所: 公開図書室 蔵書検索コーナー横

期間: 1月8日(木曜日)から5月6日(水曜日)



# 新着案内

各分野の担当者が選んだ、おすすめの最新資料を紹介します。

## 人文・社会・自然

『フェイクブック・コレクション “まるで本”の本型アイテム 764 点』 アルミン・ミュラー/著  
グラフィック社 東京 2025.1 756.8/7251

長く製本や修繕に携わってきた著者は、本の形をしたアイテムを蒐集してきました。その数なんと 1500 点以上。本書ではその一部を写真とともにご紹介しています。ジュエリーボックス・裁縫箱・名刺入れなど、多様なアイテムが本の形をしており、材質もさまざま。本好きな方、ぜひご覧ください。

『ヴァイキングの日常生活 24の仕事と生活でたどる1日』 キルステン・ウルフ/著、田口未和/訳  
原書房 2025.8 238.9/258

「ヴァイキング」といえば、角付き兜を被った荒々しい戦士…というのは後世のステレオタイプです。実は彼らの活動は、季節労働のような「職業」に近いものでした。本書は、最新の考古学的知見や中世の文献を基に、北欧中世に生きた人々の 24 時間を描きます。戦士だけではないヴァイキングの日常を追体験してみませんか？

『日本のインフラ危機』（講談社現代新書）  
岩城一郎/著 講談社 2025.12 510.9/125Z

人口減少社会のなかで過去に整備されたインフラの維持管理、更新が大きな課題になっています。本書では日本大学工学部でコンクリート工学を研究する著者が、そもそもなぜインフラは劣化するのか、維持管理する方法などを主に工学的な側面から解説しています。県内の取り組みも多く紹介されており、生活に不可欠なインフラを支えるための方法を考えることができる一冊です。

## 児童・児童図書研究

『お悩み相談そんなこともアラナーナ』  
ヨシタケ シンスケ/著 白泉社 2025.10 J159/3

『りんごかもしれない』、『あんなにあんなに』など、大人でも考えさせられる絵本を執筆しているヨシタケシンスケさん。本書は、雑誌 MOE の連載でヨシタケさんが読者の悩みに答えた企画を書籍化したものです。

自称“元気のない人の考え方”のプロであるヨシタケさんいわく、世の中には“元気のある人の考え方”と“元気のない人の考え方”の2種類の考え方があるとのこと。本書では、“元気のない人の考え方”に基づいてお悩みに回答しています。「どうすればうまくいくか」ではなく「うまくいかなくてあたりまえ」。“問題に対する捉え方を変えてみる”、というヨシタケさんらしい切り口での回答がたくさん載っています。アシスタントのアラナーナちゃんのクスツと笑えるアドバイスや、随所にあるかわいいイラストも魅力的です。

## 雑誌・新聞

東日本大震災と福島第一原子力発電所事故の発生から 15 年になりました。関連特集記事のある雑誌を紹介します。

『日経サイエンス』 日経サイエンス Z405/S3  
2026.4(第 56 巻第 4 号, 通巻 658 号, 2026.4)

特集「東日本大震災から 15 年」

『群像』 講談社 Z905/G1 2026.4(第 81 巻第 5 号,  
2026 年 4 月)

特集「震災後の世界 15」

『A T O M O Σ』 日本原子力学会 Z539.09/A1  
2026.3(第 68 巻第 3 号, 通巻 801 号, 2026. 3 月号)

特集「福島原発事故 15 年目の総括 I」

『情報の科学と技術』 情報科学技術協会  
Z015.2/D2 2026.2(第 76 巻第 2 号, 2026. 2)

特集「震災アーカイブの持続的な継承」

## 地域

『浜の光たるクラブに ゼロから築き上げたいわき FC  
の挑戦』 大倉智/著 東洋館出版社 2025.12  
LS783.4/O1/1

2026 年 3 月で、東日本大震災の発災から 15 年となりました。この 15 年間、様々な人々・団体が震災の復興に携わってきました。いわき市と双葉郡をホームタウンとするプロサッカークラブ・いわき FC も、東日本大震災の復興に寄与するために設立されました。2015 年 12 月の創設以来、いわき FC が地域に寄り添い築き上げてきた 10 年間のあゆみを凝縮した 1 冊です。

『ロココ・キッチン』  
川内有緒/著 一之瀬ちひろ/写真 講談社 2025.11  
LS914.6/K35/1-2

震災から年月が経ち、少しずつ変わってきた浜通りの国道 6 号(通称ロココ)沿い。この地に生まれ育ち戻った人、新しく移住した人…複雑な思いを抱えながらそれでもこの地で生きることを選んだ人々の、あたたかな日常のいとなみが食を通し丁寧に描かれています。どんな時でも、人は食べ、たくましく生きる…震災と原発事故の負の面だけでなく、新たな光と道筋を照らすような作品です。昨年、第 35 回 Bunkamura ドウマゴ文学賞を受賞、今年 2 月にはドキュメンタリー映画「ロココ・キッチン」が公開されています。

書中にでてくる「食」をテーマにしたエッセイ集『ロココ・キッチン』(川内 有緒/編著 ロココ・キッチンプロジェクト/編著 植田印刷所 2024.2)も当館でご覧いただけます。